

保健体育科学習指導案

場所 体育館2階 (25人、4グループ)
 授業者 稲葉 恵

1 単元名 E「球技」 ゴール型 バスケットボール

2 生徒の実態

前単元「陸上 ハードル走」では、ペアと互いの姿を見合い、一単位時間ごとの課題や、各々の苦手な部分に合わせて練習ができるよう取り組んだ。単元後、「自分の苦手を把握し、それに合った練習ができたか」との問いに、7割以上の生徒が「よくできた」と答えた。それ以外の生徒の記述の中には、「課題を把握していたけれど、合った練習ができずあまり上達しなかった」「抜き足が課題だと思っていたけれど、実は振り上げ足が課題だった」というものがあった。また、「課題把握をどのように行っているか」と質問したところ、7割以上の生徒が「ペアや仲間に見てもらおう」と答えた。

バスケットボールは攻守が入り交じり、高い連続性があることから、「どこを見るとよいのか」「何を視点に考えるとよいのか」を明確にすることで、課題をできる限り正確に把握し、適した練習を行うことができるようにしたい。

3 本時のねらい

速攻を成功させるために、データや視点をもとに自分たちの課題について捉え、必要に応じて選択した練習方法を、ゲームに生かすことができる。

4 本時の展開 (9/11)

過程	活動内容	指導・援助, 研究について
0 準備運動・帯練習 1 全体計画会 ・前時の試合結果と速攻数等のデータを振り返る。 ○速攻を成功させて勝つために、自分たちの課題に合った練習方法を選んで練習し、ゲームに生かそう。 2 グループ計画会 ・現在の自分たちの課題は何かを、データや視点をもとに考える。 ・「今〇〇だから～したい・△△ことをできるようにしたい」という願いを明確にし、そのための練習方法を選択する。 例・リバウンドを取ってから「つなぎ役」に出すところがうまくいかないし時間がかかっていたから、「リバ出す練」をしよう。 ・「つなぎ役」から前にさっとパスを出すことができていないので、もっと素早く出せるように「早つなぎ練」をしよう。 3 練習 自分たちの課題に合わせた練習を行う。 4 ゲーム (6分×1試合) 5 グループ反省会 ・自分たちの選んだポイントについて振り返り、次回への作戦を立てる。 6 全体反省会 ・課題の達成度を振り返り、次時の課題(リーグ戦)をつかむ。 ・自分ができたことや仲間のよさを振り返る。	・「速攻成功」を、「ボールを取ってから10秒以内にシュートまでいくこと」とする。また、シュートが入ったら2点、入らなくてもリングに当たったら1点とする。 ☆ 研究内容2 <u>生徒の主体性を引き出す手立て</u> 正確に自己チームの実態を把握するために、前時の試合結果等のデータと、「速攻のどの場面のどんな動きができるとよいのか」という視点を共有しておく。また、前時に自分たちの試合の動画を視点に沿って分析しておく。 自己チームの課題に応じた練習方法を選択するために、練習の意味や効果を理解・共有できるよう、掲示やグループノートに継続的に残す。 ・各チームの練習方法を集約し、練習場所と順番を明確に指示する。 <評価規準> データや視点をもとに自分たちの課題について捉え、必要に応じた練習方法を選んで練習したことを、ゲームに生かすことができる。 (思考力・判断力・表現力等)	

5 研究に関わって

<研究内容 2>

本時の手立て・活動 と 期待する効果

① 正確な自己の実態把握のための視点 (チェックポイント) の共有

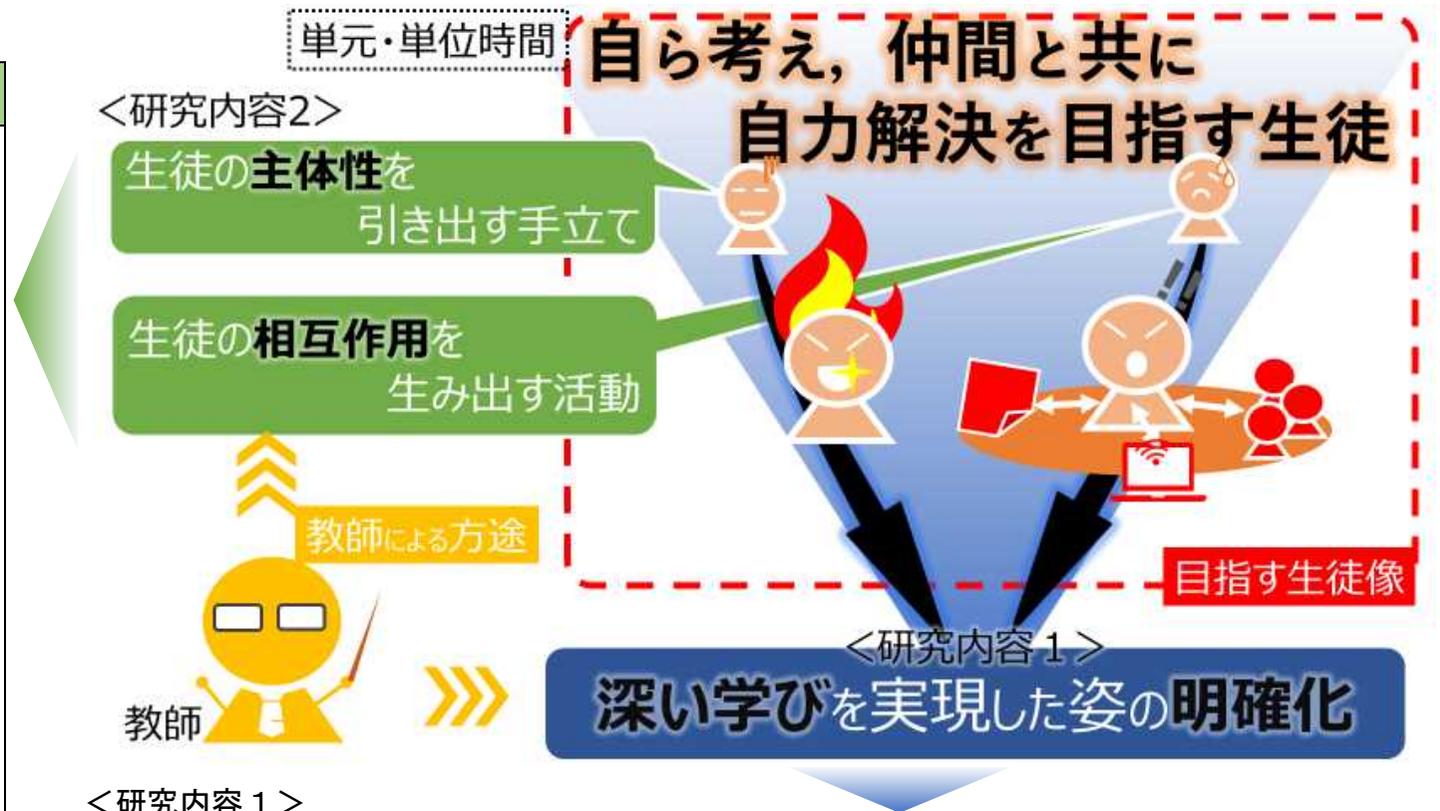
自分たちの試合の様子を振り返るための「客観的なデータ」「視点」を明確にし、毎時間使って練習や振り返りができるようにする。「データ」は速攻数、得点、勝敗。「視点」は、単元の技能の目標である速攻を場面ごとにいくつかの要素にわけてチェックポイントを作っておき、それができているかどうかを判断することによって、課題がどこにあるのか、何をするとよいのかを生徒自身が把握しやすくする。また、前時に中間戦を録画し、自分たちの試合の様子をポイントに照らし合わせて客観的に見て、分析する時間をとる。

グループ計画会の中で、これらを活用して考えるように促すことで、「今〇〇だから～したい」「△△ができていないから、もっと～になりたい」という生徒の願いや目指す姿が、より実態に沿ったものになることを期待する。

② 練習効果の理解の共有

生徒が主体的に練習方法を選択し活動するためには、「こうなるためには、この練習をするとよい」というように、練習の意味や効果を理解し、仲間と共有する必要がある。単元を通して、毎時間の課題と練習方法の必然を生徒が感じられるように提示するとともに、その効果を振り返ることができるようにグループノートや掲示物に残す。

こうした環境を設定することで、自分たちの願いをもとに、グループの課題に応じた練習方法を選び、課題を主体的・合理的に解決していくことを期待する。



<研究内容 1>

本時の深い学び	本時の深い学びを実現した姿 (具体)
データや視点をもとに自分たちの動きを振り返り、それを根拠として目指す姿を設定するとともに、必要に応じた既習の練習方法を選択して練習に取り組む。その中で、自分の考えや判断を仲間にはわかりやすく伝え、ゲームに生かすことができる。	<p>【グループ計画会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前回動画を見たときに、「守り役」から「つなぎ役」への最初のパスがまだ遅いと思った。取ってすぐに出せるよう、「リバ出す練」をしよう。」 ・「そのあと、全部の流れを続けて、ゲームに生かせるように、『ラグビーからの速攻練習』をやるよ」 ・「あまり相手のボールをカットできていないから、その前のゾーンディフェンスでもっとパスカットをする練習をしたほうがいいんじゃないかな」 <p>【練習中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『マイボールになった瞬間すぐにサイドに広がって走る』があんまりできていないと思う。取ったらすぐにパスを出すようにするけど、もう少し広がった方がパスしやすいから、動きだけ一度やってみよう」